



(以下は市教委作成の説明資料から)

# 尼崎琴葉中学校(学びの多様化学校)はどんな学校？

人事異動希望の時期になり、来年度開校の尼崎琴葉中学校(学びの多様化学校)についての情報が少なく、異動先の対象にするかどうかの判断ができないと学校現場からの声があります。尼教組は、その声を市教委に伝え質疑を行い、尼崎琴葉中学校の情報を市内各学校に発信するよう要請しました。

質疑は以下の内容です。

尼教組から	市教委からの返答
教職員の配置	校長 1、教頭 1、教員 7、養護 1、事務 1
加配はつくのか？	調整中
カウンセラーは？	配置に向けて調整中
サポートスタッフ、校務員は？	配置に向けて調整中
勤務時間は？	他の学校と同様
家庭訪問時の交通手段	公共交通機関や自転車を基本とし、必要に応じて公用車の使用も想定
校務分掌は？	検討中ですが、既存の学校と異なることも想定
教科の評価は？	基本構造は同様。授業時数等が異なるため、評価材料等について研究実践をすすめていく。
行事はどうする？	生徒の意見や状況を踏まえて、計画・実施していく予定
クラブ活動は？	想定していない
生徒個人の指導計画は？	個々の状況を把握し、教員間、生徒や保護者と共有し、生徒の学びに活かす仕組みについて検討していく必要がある。

新しくつくる学校なので、「教職員みんなで討議することが多く、クリエイティブな意欲ある職員が求められる」と市教委は期待しているようです。

- ◇定員◇ 全校生徒40名程度(通常の学級が1学年1学級ずつ:各学年10～15名程度)
- ◇場所◇ 尼崎市南城内10番地の2
- ◇施設◇ 新校舎(平屋)と成良中学校琴城分校の校舎を併用。琴ノ浦高校の運動場と体育館を利用。



イメージ

## ◇教育課程◇

総授業時数を2～3割削減するとともに、各教科の授業時数削減分の一部を加えて「総合的な学習の時間」を拡充し、ゆとりと特色ある学びの実現を図る特別的教育課程を文部科学省に申請中。

## ◇入学・転学の検討の対象となる児童生徒◇

①尼崎市内に居住していること、②不登校状態である又は不登校傾向が見られること、③尼崎琴葉中学校の教育課程や特徴を理解した上で、本人・保護者ともに入学・転学を希望するとともに、登校して学ぶことを希望すること。

※上記①～③の要件を全てを満たす児童生徒について、入学・転学の検討を行います。

※入学・転学は、面接等を経た上で、本人の状況や意思、支援状況、実施する教育活動等により総合的に判断します。

## ◆総合的な学習の時間の拡充により 柔軟で多様な学びを実現します◆

### 個別最適な学びを重視した科目

#### 【キーワード】

- ・教科学習
- ・学び直し
- ・自己調整力
- ・SST
- ・インプット
- ・自分のペース
- ・好き得意
- ・対話
- ・自主性
- ・学びの保障



※「SST」：ソーシャルスキルトレーニング

## 特色のある学び

### 協働的な学びを重視した科目

#### 【キーワード】

- ・探究
- ・キャリア
- ・余暇
- ・社会性
- ・創造性
- ・体験
- ・生き方
- ・つながり
- ・ゲストティーチャー
- ・アウトプット



## ◆同学年集団と異学年集団の良さが活きる学びの環境を作ります◆

### 【イメージ例】





# 学校の「男性性」を問う

教室の「あたりまえ」をほぐす理論と実践

大江未知・虎岩田加・前川直哉  
教育科学研究会

## 教室は男女平等か？

学校の「良いこと、目指すべきこと」の基準の多くが「男性性」と結びついている。わたしたちはそれを当たり前に受け入れていないか？学校の日常をジェンダーの視点から問い直す。

### 教科研'26 関西大会 1月プレ学習会

■教育科学研究会  
■学校の「男性性」  
■ジェンダー平等  
■ジェンダー平等  
■不登校

京都教育大学  
& オンライン

# 1.11

13:00開場  
13:30開始 17時終了  
希望者による懇親会もあります

**著者が語る『学校の「男性性」を問う』出版記念シンポジウム**  
—教室の「あたりまえ」をほぐす理論と実践—

日本に初の女性総理大臣が誕生した。サラリーマン家庭出身で二世議員ではない女性だ。快拳なのだが、喜べない。高市首相は、男性中心の日本の政治・経済構造に適応し勝ち抜く立場だからだ。教育は女性を「男並み」に仕立てようとする構造を持っている。「女だって頑張りめけば、首相になれる」は女性差別を覆い隠す。頑張りえない条件の人を上から目線で切り捨てる冷たい学校は、大量の不登校（教師も）を生み続けるだろう。改めて、学校の「男性性」を問い、子どもも教師も保護者も大切にできる学校を考えたい。

**プログラム**

13:00開場 17:00終了  
その後、懇親会があります

**13:30 【前半】シンポジウム開始**

- ・学校の「男性性」を語る
- ・息苦しい学校の構造を問う
- ・暴力的な指導と「男性性」
- ・学校で起こる性暴力を考える
- ・執筆者によるクロストーク

**15:50 【後半】質疑応答・討論**

- ・会場から、現状を語り合い、考える

**開場・参加費**

**開場**

京都教育大学 & オンライン  
(JR京都駅から徒歩20分)  
<https://www.kyokyo-u.ac.jp/access/>

**参加費**

1000円(対面参加費、zoom参加費)  
※学生は無料です  
申し込みは、教科研peatixにて

**お申込み  
お問合せ**

右の二次元コードにて、お申込みください。詳細は公式HPにて。  
教育科学研究会事務局  
〒162-0818 東京都新宿区麹町19小野ビル2階  
kyoukaken@nifty.com

【主催】関西大会実行委員会・教育科学研究会

教科研 関西大会

<https://kyoukaken.jp/>  
<https://kyoukaken20261001peatix.com>

2025ひょうご教育のつどい in 尼崎

## 記念講演 安田菜津紀さん

紛争地、被災地に生きる人々の声～取材から見えてきたこと～



**安田 菜津紀**

1987年神奈川県生まれ。認定NPO法人Dialogue for People(D4P)フォトジャーナリスト。同団体の副代表。16歳のとき、「国境なき子どもたち」友情のレポーターとしてカンボジアで貧困にさらされる子どもたちを取材。現在、東南アジア、中東、アフリカ、日本国内で難民や貧困、災害の取材を進める。東日本大震災以降は陸前高田市を中心に、被災地を記録し続けている。著書に『国籍と通書、兄への手紙 ルーツを巡る旅の先に』(ヘウレーカ)、他。上智大学卒。現在、TBSテレビ『サンデーモーニング』にコメンテーターとして出演中。

2026年  
**1月24日(土)**  
**尼崎市**  
**中小企業センター  
多目的ホール**  
阪神尼崎駅より徒歩5分

開会行事 **13:30**  
記念講演 **14:10**

参加費無料

どなたでも参加できます

**主催 ひょうご教育のつどい実行委員会**

兵庫教職員組合 兵庫県高等学校教職員組合 兵庫県私立学校教職員組合連合 兵庫民主教育研究所  
問い合わせ先 兵庫県高等学校教職員組合内 教育のつどい実行委員会  
TEL 078-341-6745 Mail hyogotsudoi@gmail.com